

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：薬と医療 ILAS Seminar :Pharmaceuticals and Medicine			担当者所属 職名・氏名	薬学研究科 薬学研究科 薬学研究科	准教授 准教授 講師	白川 久志 高橋 有己 喜多 知子
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	10(10)人	配当学年	1回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	薬学研究科建物内の教室(医・ 薬・病院構内)			使用言語	日本語
キーワード	薬物の作用メカニズム / 医薬品開発 / 最先端医療 / 個別化医療						
[授業の概要・目的]							
体の中での薬の動き、作用を理解し、医療における薬物治療の役割について考える。							
[到達目標]							
薬の動きとその制御、働きについて理解し、医療における薬物治療の役割、有効性を理解する。また、SGD (small group discussion) を経験することで、課題に対して自主的に取り組む能力を養う。							
[授業計画と内容]							
薬は体の中を動き、標的部位に到達し、そこで生体の分子と相互作用することによって効果を発揮する。本ILASセミナーでは、実際の医療現場で使われるくすりについて、自らがそれを開発する立場から、また自分が患者として使う立場から薬の動きとその制御、働きについて理解し、医療における薬物治療の役割、有効性について考える。授業は少人数のグループを単位にしたSGD (small group discussion) の演習形式で進め、各テーマ毎に発表会を実施し、学生同士で意見交換をしながら薬に関する理解を深める。授業計画は下記の通りである。 (1) イントロダクション【1回】：白川 授業の進め方と準備・発表の方法を周知するとともに、医療の現状、くすりの役割、医薬品開発について概説する。 (2) 神経疾患/神経免疫疾患の予防と治療【4回】：白川 超高齢社会・ストレス社会で問題となっている神経疾患/神経免疫疾患を取り上げ、現在の治療薬の作用メカニズムを踏まえた上で、将来的な予防や治療の戦略について討議する。 (3) 薬の体内動態とその制御【4回】：高橋 体外から投与された薬が体内に入るまで、そして入ってから消えるまでの動き、すなわち体内動態を取り上げ、これについて概説したのち、それを制御する方法とその戦略について討議する。 (4) 薬物療法の個別化【4回】：喜多 薬の有効性・安全性の個人差について概説し、個別化療法の戦略について討議する。 (5) まとめ【1回】：喜多 全体を通じて学んだことを総括する。 (6) フィードバック【1回】：高橋							
[履修要件]							
特になし							

ILASセミナー：薬と医療(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー：薬と医療(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価(コメントシートの提出、出席の状況等)(50点)、ゼミでの学習姿勢(10点)、プロダクト(40点)により評価する。

平常点評価(出席の状況30%、コメントシートの提出20%、授業中に課される課題40%)(90点)、ゼミでの学習姿勢(10点)により評価する。各項目の詳細は初回授業で説明する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業後は復習を行うこと。口頭発表に備えて事前にテーマを決めて、自主的に資料を収集しまとめること。その他授業外学習については、各テーマの第一回の授業中に担当教員から指示する。

[その他(オフィスアワー等)]

特定の予備知識は必要としない。化学や生物の素養も要求しない。薬に興味のある積極的な学生の受講を希望する。

オフィスアワー実施の有無はKULASISで確認すること。

[主要授業科目(学部・学科名)]